

～ひだまり～

3年5組 学級目標

和学煌星

～目的地で輝くために～

第3学年だより

第 29 号

作文特集号「修学旅行記」～5組～

楽しかった修学旅行の初日が、もう2週間前のこととなりました。1日目の今頃は、どこで何をしていったのでしょうか。“3年間の集大成”として大成功させるべく、クラス・学年一丸となって頑張ってきました。しかし、3年生と言えども上手くいくことばかりではなく、準備から当日まで、苦労した経験や、失敗してしまう場面もありました。

前回に続き、今回は5組の作文をご紹介します。素敵なお2作品を、どうぞお楽しみください。

「景色をつなげる」

修学旅行に行く日の朝、私はドキドキしていた。なぜなら、私が勉強した歴史を言葉として聞くだけでなく、実際に目で観ることができるのであるからだ。今まで学んできた歴史を目で見ることで本当にあったんだと実感することができる。

京都にはたくさんの守るべき建物がある。その建物が何百何千年経っても残っていて、私たちの目で見ることができることに驚いた。それに加え、同じ景色を昔の人と共有できることが嬉しかった。

私が特に気に入った建物は銀閣寺だ。銀閣は足利義政がつくった隠れ家である。私はこの時代が好きだから、なぜ義政が隠れ家をつくったのかも分かっていた。知識を蓄えてから見る本物の銀閣は、とても面白かった。義政がつくった隠れ家はとても本気だった。まず、銀閣寺は木や竹でおおわれており、集落からは見えないようになっていた。そして寺の中に入る方の扉は集落の方を向いていなかった。銀閣寺全体はこけて履われていた。このように建物の節々に込められた義政の気持ちが、同じ時代に生きていなかった私にも伝わった。

この修学旅行で私が学んだことは、知識を蓄えてから歴史上の建物を見ることで、面白さが2倍、3倍になることだ。そして、この過去の建物を私が見られていることがすごいということだ。この景色達を次の世代、また次の世代へとつなげていきたいと思った。

裏面に、もう1作品掲載してあります。そちらもどうぞ、ご覧ください。

「歴史あふれる京都と奈良」

中学校最後の「旅」、待ち遠しさとは裏腹に虚しさが入り混じる。少しずつ秋の味覚を見かける9月24日、修学旅行が始まった。

一日目の奈良は、日本最高の木造建築である法隆寺や奈良公園、東大寺を訪れた。法隆寺金堂釈迦三尊像はアルカイックスマイルを表現した職人の技術に感激。奈良の大仏は人が入れる鼻の穴でその大きさに圧倒される。奈良公園は神の使いである鹿の礼儀とその数に驚きを隠せない自分がいた。

二日目の京都は、伏見稻荷大社や嵐山、清水寺を訪れた。伏見稻荷大社は門の数が日本最大で神秘的な異空間に居るよう感じた。嵐山では竹林の小径と天龍寺に行き、竹林の力強さや壮大な景色、日本古来の建造物の偉大さが感じ取れた。清水寺は建造物を支える柱を使っていないのに耐震性が高いことを不思議に思った。

三日目午前6時、放送とともに皆が目を覚ます。最後は三十三間堂、八坂神社、金閣寺を訪れた。三十三間堂は、千一体の仏像が飾られており、応仁の乱後から数え800年以上の歴史があると知り驚いた。八坂神社は祇園造りと呼ばれる独自の建築様式で、祀られている大国主神は縁結びの神様であるとタクシーの運転手さんに教えていただき、興味深く感じた。金閣寺は一層目が寝殿造、二層目が武家造、三層目は禅宗様式と造りが違い、金箔を変えるだけでも約7億4千万円の費用がかかると知り驚いた。

修学旅行を通して京都や奈良の文化や歴史的建造物、国宝という物を知り、実際に観て様々なことを学ぶことができた。このように自ら学ぶという姿勢を大切にして、これからの大きな山である高校受験に挑んでいきたいと思う。

【担任の先生から】

実際の体験には、教科書やインターネットからは学べないことがたくさんありますね。さて、今回の修学旅行ではどのようなことがそれにあたるでしょうか。歴史や文化に実際に触れて見た感動、仲間と協力して困難を乗り越えたこと、マナーを守って集団生活を過ごすことの大切さ、人の優しさに触れて感謝の気持ちをもったことなどたくさんの学びを得たのではないかと思っています。修学旅行が終わるといよいよ受験や卒業式を意識した生活が始まります。残り半年、君たちの成長を一生懸命支えたいと思います。